

かまひきこもり相談支援センターに関する事業報告

1. 総括

今年度、かまひきこもり相談支援センター（以下「センター」という。）で受けた相談は757件（前年比88件減）で、このうち4件が新規相談でした。相談の内容は、「人間関係がうまくつくれず悩んでいる」「高齢の母親と同居する弟が働いていないので心配」「40代の息子が働いておらず、将来が心配」「高齢の父親と同居する娘が自宅中心の生活をしていて心配」というもので、そのうち1件は、フリースペースにつながりました。3名の方は、大学などを卒業後、うまく社会に出ることができずに自宅中心の生活を送られており、そのうち2名の方とはお会いすることができませんでした。今後もご家族に状況を伺いながら、アプローチしていきたいと思っております。

センターの相談は、全体の約9割（711件）が電子メールでのやり取りで、日々の不安な思いや人間関係の悩みなどをつづられており、電子メールだと相談しやすいことが分かりました。

センターの相談員は、訪問・メールなど本人やご家族に対して様々な働きかけをしていますが、ひきこもっているご本人に会うことはなかなかできず、息の長い働きかけが必要だと思いつつ同時に、ひきこもり期間が長期化すれば、家族の高齢化や経済的負担などの不安も出てくると思われるため、難しさを抱えているのが実情です。今年度は、ご家族の一助になればとの思いで、令和元年9月26日（木）に個別相談会を開催しました。当日は、2家族3名が参加し、福岡「楠の会」の吉村文恵さんと辻サチ子さんに、日頃の思いをじっくり聞いてもらいました。今後も、少しでも気持ちが前向きになれるように、個別相談会を継続していきたいと思っております。

センターとつながっているのは、13名8世帯で、ご本人の年齢は20歳代4名 30歳代4名 40歳代3名 50歳代2名となっています。その中の4名3家族が毎週木曜日に開催（寄ってこハウス・稲築住民センター）しているフリースペースに参加されていますが、5名の方とはお会いすることができず、ご家族を介して状況を伺うだけになっています。今後もメールや手紙を介して、ご本人の気持ちが変わるのを待ちたいと思っております。

家族会は、月1回フリースペースに合わせて開催し、延べ26名が参加しました。ご家族からはひきこもりが長期化していることへの不安、子どもの行動に神経を使いながら生活していることなどが語られることもあり、あらためて家族のストレスや負担の大きさを感じています。

2. 事業実績

(1) 延べ相談件数 757件

新規相談 4件（すべて電話での相談）

<新規相談の詳細事項>

- ・相談経路 本人から1件 家族から2件 関係機関から1件
- ・当事者の年齢 20代1人 30代2人 50代1人
- ・ひきこもり期間 1年未満1人 2年未満2件 3年未満1件
- ・継続相談・支援回数 19回（来所5回 訪問3回 電話11回）
- ・フリースペース等をつうじた継続相談・支援回数 734回（来所3回 訪問4回 電話16回 メール711回）

(2) 現在つながっている方々への支援状況

①つながっている方々

- ・当事者 13人（年齢 20歳代4人 30歳代4人 40歳代3人 50歳代2人）
- ・家族 8世帯

②フリースペースの開設

開設回数 47回（毎週木曜日の午後から）

開催場所 寄ってこハウス 39回 稲築住民センター2階会議室 8回

延べ参加者 146人（本人4人 3家族4人）

内 容 コーヒー等を飲みながら話すなど、自由な空間となっている。月1回は障がい者支援施設清浄学園のカラオケルームを借りてカラオケを歌い、リフレッシュを図っている。

③家族の集い定例会の開催

開催回数 12回（月1回フリースペースに合わせて）

開催場所 寄ってこハウス 10回 稲築住民センター2階会議室 2回

延べ参加者 26人（2家族3人）

内 容 当事者家族が集い、日頃抱えている不安や悩みなどを話すことで、気持ちをあらたにする場となっている。

(3) ひきこもりに関する啓発事業の実施

開催年月日 令和元年9月26日（木） 午後1時30分～ 午後3時50分

参加者 2家族3名

会 場 稲築住民センター2階会議室

内 容 1部 講 話「子どもが自宅中心の生活をするようになって親として思うこと」～これからのに向けた思い～

講 師 福岡「楠の会」（KHJ全国ひきこもり家族会連合会福岡支部） 吉村文恵さん 辻サチ子さん

2部 講師との個別相談会